

平成22年5月28日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19500502  
 研究課題名（和文） 表現運動・ダンスにおける学習内容の選定と妥当性の検証  
 研究課題名（英文） Examination of adoption and appropriateness of learning contents in expressive movement and dance  
 研究代表者  
 村田 芳子（MURATA YOSHIKO）  
 筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授  
 研究者番号 50166295

研究成果の概要（和文）：本研究は、学校体育における「表現運動・ダンス」の学習内容について、その理論的な枠組みを検討するとともに、児童を対象とした題材調査と教員を対象とした実施調査を通して発達段階に対応した学習内容の選定と配列の試案を作成し、小学校及び中学・高校の授業実践を通してその妥当性を検証した。本研究は新学習指導要領の改訂とその実施に向けた時期と重なる中で、それに対応した先駆的な実践研究として高い関心を得るとともにその啓発に大きな成果をもたらした。

研究成果の概要（英文）：This study examined the theoretical frame of the learning contents in “expressive movement and dance” in physical education at schools at first. Secondly, through the investigations of subject for students and implementation for teachers, a tentative plan of adoption and scheme in the learning contents was given according to the developmental stage. The plan was then considered its appropriateness through teaching practices at elementary, junior high and high schools. Since this study coincided with the revision of new curriculum guideline and its execution, it has drawn great deal of notice as a pioneering compliant practical study, and its enlightenment has produced appreciable result.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学，身体教育学

キーワード：舞踊教育，身体表現，表現運動・ダンス，学習内容，運動の特性，学習指導要領，授業，題材・テーマ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、子どもを取り巻く生活の急激な変化により、身体的な遊びの減少、生身の身体によるコミュニケーションの不足、長期的な体力低下傾向など、子どもの心とからだをめぐる様々な問題が顕在化し急速に進行している。こうした状況にあって、「体育で何を教えるのか」というアカウンタビリティーが問われるとともに、これまで以上に教師の資質や指導力の向上が強く求められている。こうしたことから、ダンスで何を教えるのか、子どもたちにどのような能力や資質を育成することが出来るのかの検討が急務の課題となっている。

(2) 学校体育における表現運動(小学校)・ダンス(中学・高校)は、体操・スポーツとともに体育の一領域として位置付けられ、社会における多様なダンスを背景に生涯学習の重要な内容として広がりを見せている。表現運動・ダンスの学習は、「心と体を一体として捉える学習」や「豊かな関わり合いの学習」といった学習指導要領のコンセプトに合致する内容として期待される一方で、自由で創造的な学習という特性からくる学習内容の設定や指導の難しさが依然として大きな課題となっている。

(3) 筆者はこれまで即興表現とコミュニケーションの意義と教材の開発、イメージ(題材やテーマ)と動きとの関係に関する調査研究、発達段階に応じたダンスカリキュラムの研究をテーマに表現運動・ダンスの学習指導について実践的な研究を重ねてきており、新学習指導要領改訂を迎え、学習内容の選定と配列という今回の研究課題につながっている。なお、研究代表者の村田は、「学習指導要領の改善に関する調査研究の協力者」のメンバーでもあり、新学習指導要領の改訂と綿密な関連を図りながら、本研究を進めていくことができる。

## 2. 研究の目的

(1) 学校体育における「表現運動・ダンス」領域のカリキュラムの確立に向けた理論的枠組み(特性・目標・学習内容の構造)を構築するとともに、小学校及び中学校・高校における表現・創作ダンスを中心に、学習内容選

定の手がかりとなる表現の題材やテーマに関する調査を通して、発達に対応した学習内容の選定・配列モデルを作成する。

本研究では、表現運動・ダンスの特性と学習内容との関係を前提に押さえながら、学習内容選定の手がかりを個々の具体的な題材やテーマに求め、題材・テーマと関連する動き(技術)を整理し、小学校から中学校・高校への発達にふさわしい題材群・テーマ群を選定・配列しようとするものである。

(2) この研究目的を達成するための基礎的研究として、わが国の学習指導要領における「表現運動・ダンス」領域の学習内容の変遷について、特に学習内容のスタンダードという視点から、指導書・解説書に記載された具体的な内容(題材と動き等)の例示まで含めて再検討し、問題と課題を明らかにする。

(3) 調査研究の結果を踏まえ、各発達段階にふさわしい学習内容を仮定的に設定して、小学校及び中学校・高校の教師とともに授業実践を試み、それらが妥当なものであるかどうかを実証的に検証する。

## 3. 研究の方法

(1) 表現運動・ダンスの学習内容に関する理論的枠組みの検討

① わが国の戦後の学習指導要領における「表現運動・ダンス」領域の学習内容の変遷とその分析

② 現在改訂が進行している新学習指導要領における表現運動・ダンス領域の内容を整理し、その構造を分析する。今回は、特に小学校・中学校・高校の発達を通じた学習内容の選定と配列という視点から、指導書・解説書に記載された具体的な内容(題材・テーマと動き等)の例示まで含めて検討する。

③ 学習内容の選定・配列を決定するための理論的枠組みの検討

(2) 児童対象の題材調査の実施

① 調査用紙の作成

小学校の調査で用いる題材30は、村田らの「創作ダンスにおける学習内容の選定に関する基礎的研究—小学校児童と題材との関係から—」(1992)を基に設定する。

## ②題材調査の実施

調査対象は、岡山市内の小学校 12 校、各学年男女約 100 名ずつを目安に、計 1336 名。

## ③調査結果の分析

題材30に対する児童の関心度を中心に、学年別（発達の特徴）、男女別にまとめ、統計的な処理を経て分析する。更に、16年前に実施した結果との比較分析も行い、児童の題材に対する関心の変化を明らかにする。

### (3) 教師を対象とした表現運動・ダンスの実施状況と学習内容に関する調査

小学校・中学校・高等学校において表現運動・ダンスの授業を担当する教師を対象に、現行学習指導要領のもとでの表現運動・ダンスの授業に関して、各段階（校種や学年）でどのような学習内容が選ばれ、どの程度習得されているのか、何を重視して指導しているのか、学習内容を中心に実施状況の実態を調査する。調査対象は、筆者らが直接関係している講習会を受講した教員、研究指定校の協力を得て実施する。

### (4) 発達に対応した学習内容モデルの作成と授業実践による妥当性の検証

#### ①発達に対応した学習内容モデルの作成

学習内容に関する理論的な枠組みの検討と調査研究の結果を踏まえ、小学校・中学校・高等学校の発達段階に対応した典型的な題材・テーマを選び出し、それらの内容が授業実践の中でどの程度達成されるのか、実際の授業実践を通して検証する。

#### ②授業実践による検証

・福岡県北九州市、埼玉県川越市を中心とする小学校・中学校・高等学校の表現運動・ダンスの授業作りとその実践

・千葉県習志野市Y小学校、茨城県つくば市S小学校、埼玉県K小学校など、筆者らが関わる教育現場の教員とともに検証授業を実施。

## 4. 研究成果

### (1) 表現運動・ダンスの学習内容に関する理論的枠組みの検討

#### ①戦後の学習指導要領における学習内容の変遷とその分析

わが国の戦後の学習指導要領における「表現運動・ダンス」領域の学習内容の変遷を分析・考察し、その学習内容の構造と独自性を明らかにした。結果は以下のようにまとめられる。

・わが国のナショナルカリキュラムである学

習指導要領はおよそ10年ごとに改訂され、戦後から現在までその時々の教育・体育の目標や方向を受けてダンス領域の内容も名称も変遷している。

・戦後からの主なダンス領域の内容は、表現・創作系のダンスとフォークダンス系のダンスの2つで構成され、平成10年の改訂でリズム系のダンスが新たに導入され、現在の3つの内容構成に広がった。

・戦後から女子を中心に履修されてきたダンスは、平成元年の改訂で男女ともに履修できるようになり、さらに新学習指導要領では中学1・2年まで男女とも必修となり、ダンス学習への量的・質的な拡大が急速に進展することが予測される。それに伴って、指導法の確立や指導者の指導力向上が求められている。

#### ②表現運動・ダンスにおける学習内容の特徴と学習内容の構造化

表現運動・ダンス領域の学習内容は、例えば「表現・創作ダンス」では、「何を」「どう」表すかという「表したいイメージと動き」が内容であり、その内容は広がっており、何がよい動きかという評価規準もイメージによって決まってくるという特性がある。こうしたダンスの学習内容の特徴を、個人種目である器械運動、集団的なゲームで進められるボール運動と比較考察した。

次に、表現運動・ダンス領域の主な内容である表現・創作ダンス、リズムダンス・現代的なリズムのダンス、フォークダンスの3つについて、20年3月に告示の新学習指導要領及び解説に示された小学校・中学校の表現運動・ダンスの学習内容、特に「技能」の内容を吟味・分析し、それを基に授業につなぐ考え方と進め方の枠組みをまとめ、雑誌論文及び2つの学会におけるシンポジウムにおいて発表した。

特に、自由な創造的な学習で進められる表現・創作ダンスにおいては、技能の内容が「即興的な表現」と「作品創作」の2つの構造でまとめられた。また、これらの2つは単元を構成する軸でもあり、この2つを軸とした単元構成モデルの試案を作成し、発達ごとの単元の展開案を設定した。

新学習指導要領で示されたダンスの必修化に対する注目度は高く、これに対応するダンスの内容をまとめた発表は、ダンス授業を担当する教員はじめ、各県の学校体育担当の教育委員会関係者などの大きな関心を集めた。この成果は、論文にまとめ発表したのが、進行する学習指導要領の改訂と関連させながら、それに対応した先駆的な提案ができた意義は大きいと考える。

(2) 表現運動における「表現」の題材選定に関する研究—児童と題材との関係を17年前の調査と比較して—

本調査は、小学校の表現運動領域における「表現」の学習内容について、「児童と題材との関係」から検討することを目的に、児童約1300名を対象に題材調査を実施し、設定した30の題材への関心度とその魅力を中心に、17年前の調査結果と比較分析するとともに、題材選定の試案を作成した。

その結果、題材への関心度は時代の変化を反映していくつか変動し、好みは多様化しているのに対して、題材の魅力から抽出された3つのキーワード群「戦い・非現実・躍動的」(全学年)・「具象的・特徴的な動き」(低学年)・「動き・感情の起伏」(高学年)は、今回新たに加わった「躍動的」以外は前回と一致しており、これらが児童と題材をつなぐ普遍的な魅力であり、題材選定のめやすになることが示唆された。この結果を基に、「関心度が高い」「動きでとらえやすい」「動きの質感が多様である」の観点から児童にとって取り組みやすい「9つの題材群」を選定し、縦軸に「動きの質感の広がり」、横軸に「とらえ方の発展」をおいてこれらを配列して題材選定の試案を作成した結果、題材の発展の様相が明らかになった。

(3) 新学習指導要領におけるダンス必修化に向けた全国実施状況調査

新学習指導要領が告示され、中でも注目されるのが「中学校1・2年で武道とダンスを含む全領域を必修化する」という点である。この改訂を受けて、今後、中学校において、女性教員のみならず男性教員もダンス指導を避けられない状況となり、学校現場では、ダンス指導経験のない教員への対応が早急に求められている。

そこで、本調査では、まず全国における「ダンス」授業の現状と問題点を明確にするために、新学習指導要領に対応したダンス学習の授業の実施状況を調査した。対象者は少数ながらも全国の各県の教員を対象にした。その結果、以下のような傾向や教員の意識が明らかになった。

・ダンスの必修化を実現させるためには、必修化の意味や取り上げる内容の特性について、教員の理解と意識が重要である。

・踊るという行為を通して、「コミュニケーション能力」が得られると考えている教員が多く、必修化のなることで特にこの点に期待が寄せられている。

・ダンスの必修化に対する教員の意識は、これまで指導経験のない教員も指導にあたるなど、「生徒には良いことだが、教員には負担」という考え方が大半を占めており、教員

の確かな指導力を獲得するためにも、誰でも気軽に参加してダンスの楽しさを研修できる機会を望んでいることが明らかとなった。

今回の調査は、中学校・高等学校の教員(文科省・中央講習会参加の全国規模の教員)を対象に調査を実施し、その成果を学会において発表した。新学習指導要領が告示され実施に向かっている現在、全国規模の実施状況調査の結果は大変貴重であり、高い関心を呼んだ。なお小学校と各都道府県の教育委員会を対象とした全国調査については調査内容の検討を終え、2010年に段階的に実施、その成果を年度中に発表の予定である。

(4) 新しい考え方と学習内容に基づく授業の実践と妥当性の検証

作成した学習内容と授業構想の理論的な枠組みを基に、小学校・中学校・高等学校の発達段階に対応した典型的な題材・テーマを選び出し、それらが授業実践の中でどのように展開されるのか、実際の授業づくりから関わり、授業実践を通して妥当性を検証した。①研究協力の北九州市及び埼玉・千葉の授業実践者とともに授業計画の作成、授業の実践、授業観察による検証を行ない、その成果を第42回全国女子体育研究大会で発表するとともに、著書にまとめた。

②埼玉県女子体育連盟との共同で小学校・中学・高校の授業検証、もう一つは、習志野市立Y小学校で1年から6年及び特別支援学級を加えた7つの単元の授業づくり、授業観察を行った。

③これらの授業実践を通して、本研究で作成した発達に対応した学習内容の選定と有効な授業展開が示唆された。本研究で導き出した理論的枠組みと学習内容及び授業の展開は、新学習指導要領の考え方を受けた先駆的な実践であるという評価を受けることができた。

(5) まとめと今後の課題

本研究のまとめとして、表現運動・ダンスの学習内容と単元の展開について、理論研究の成果をいくつかの著書にまとめ提案するとともに、学会やシンポジウムにおける発表や提言、実技講習における実際の指導の展開など、啓発的な活動を展開し、3年にわたる研究は大きな成果を得ることができた。

なお本研究の課題は、新学習指導要領の完全実施を前に試行期間の現在、まだまだ完成しきれない課題も多く残されており、今後も継続して研究に取り組んでいく予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

- ① 村田芳子、高橋和子、松本富子、新学習指導要領の概要とダンス必修化に向けて、舞踊教育学研究、査読無、11 巻、2009、106-111
- ② 村田芳子、高橋和子、新学習指導要領に対応した表現運動・ダンスの授業、女子体育、査読無、51-7・8、2009、6-16、24-25、68-67、90-91
- ③ 村田芳子、表現運動・ダンスの授業で身につけさせたい学習内容とは—学習内容と「習得・活用・探究」の学習をつなぐ—、体育科教育、査読無、56(3)、2008、14-18
- ④ 安江美保、村田芳子、表現運動における「表現」の題材選定に関する研究—児童と題材との関係を 17 年前の調査と比較して—、(社)日本女子体育連盟学術研究、査読有、24 号、2008、11-25
- ⑤ 細江文利、池田延行、片岡康子、村田芳子、今、学校体育は…—変わるもの 変わらないもの—、女子体育、査読無、50(1)、2008、6-17
- ⑥ 村田芳子、福岡県女子体育連盟、小学校・中学校・高等学校の授業研究、第 42 回全国女子体育研究大会(福岡大会)研究紀要、査読無、2008、133
- ⑦ 村田芳子、表現運動・ダンスの学習内容について考える、体育科教育、査読無、55(5)、2007、35-39
- ⑧ 村田芳子、高橋和子、牛山真貴子、小学校・表現運動。文部科学省 平成 19 年度学校体育指導者中央講習会指導要項、査読無、2007、71-82
- ⑨ 村田芳子、からだに響き、記憶に刻まれる言葉—学習者からみた「印象に残る教師の言葉」—、女子体育、査読無、49(2)、2007、10-13
- ⑩ 村田芳子、即興表現—音・もの・他者から感じるままに—、女子体育、査読無、49(7・8)、2007、82-85
- ⑪ 村田芳子、寺山由美:校種を超えたダンスの交流「ダンス交流プログラムの工夫」(第 3 分科会)。(社)日本女子体育連盟 第 40 回全国女子体育研究大会報告、女子体育、49(3):28-31、2007

[学会発表] (計 6 件)

- ① 寺山由美、村田芳子、高橋和子、細川江利子、新学習指導要領におけるダンス必修化に向けた全国実施状況調査、第 60 回

日本体育学会、2009. 8. 26、広島大学

- ② 朴京眞、村田芳子、学校におけるダンスカリキュラムに関する研究—日本の学習指導要領と韓国の教育課程の比較—、第 60 回日本体育学会、2009. 8. 26、広島大学
- ③ 村田芳子、高橋和子、佐藤豊、太田一枝、新学習指導要領に対応した表現運動・ダンスの授業の具体化に向けて、(社)日本女子体育連盟 サマーセミナー2009 シンポジウム、2009. 8. 8、東京
- ④ 村田芳子、片岡康子、高橋和子、ダンスの必修化に向けた授業を考える、(社)日本女子体育連盟 サマーセミナー2008 シンポジウム、2008. 8. 8、東京
- ⑤ 村田芳子、高橋和子、松本富子、新学習指導要領の概要とダンス必修化に向けて、第 28 回全国創作舞踊研究発表会シンポジウム、2008. 12. 20、福島
- ⑥ 安江美保、村田芳子、表現運動における「表現」の題材選定に関する試案、第 59 回舞踊学会大会、2007. 12. 1、岡山

[図書] (計 4 件)

- ① 村田芳子、小学校の体育の授業 表現運動系、「保健体育科教育法」、2009、58-61
- ② 村田芳子、細江文利、池田延行他、小学校体育における習得・活用・探求の学習—やってみる・ひろげる・ふかめる—、光文書院、2009、143
- ③ 村田芳子、細江文利、池田延行、小学校・新学習指導要領の授業 体育科実践事例集(低・中・高学年別全 3 巻)、小学館、2009、118、127、127
- ④ 村田芳子、表現リズム遊び・表現・リズムダンス・フォークダンス、新版「体育の学習」(小学校 1 年~6 年、児童書・教師用指導書)、共編者 永島惇正、佐伯年詩雄、細江文利他、光文書院、2007、24-25

[その他]

- ① 村田芳子、DVD. 6 「表現運動」、新しい小学校体育授業の展開、小学校体育科教育授業実践講座、ニチブン、2008
- ② 村田芳子: DVD. 8 「ダンス」、ACTUS 中学校体育・スポーツ教育指導法講座、ニチブン、2008

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

村田 芳子 (MURTA YOSHIKO)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教

授

研究者番号：50166295

(2)研究分担者

寺山 由美 (TERAYMA YUMI)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・講師

研究者番号：60316784

細川 江利子 (HOSOKAWA ERIKO)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：60238748